

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel: 0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

MD育成訓練士

養成講習始まる

今年度においては、国の事業からMD育成訓練プログラムが事業対象外となり、公認犬訓練士に依頼しての育成がなくなっています。
これに伴い、宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会（以下協議会と表記）では、MDMDC会員からMD育成の訓練技術講習会参加を募り、MD訓練士養成にとり組んでいます。

講習会は、三重「礎」警察犬訓練所において毎週1回／2時間、3月末まで行う予定になっています。
育成にとり組んでいます。訓練士には、基本的な訓練の他に、犬の健康管理や総合的な知識と技術が必要で、JKC（ジャパン・ケンネル倶楽部）の公認訓練士に弟子入りするなどして、5年～6年にわたり、その技術を学ぶ世界です。僅か半年（48時間）の講習で、技術を習得できるという甘いものではないと思います。

年々訓練への参加頭数の減少。それに加え、訓練士に依頼しての育成事業の打ち切りで、MDの全域への適正配置は、困難な状況です。
それを受け、協議会では、MD養成のための人材



第一回講習会

だが、ここは、講師と講習に参加されている皆さんの、熱意と努力に期待するほかありません。

地域が、MDの存続・拡充を望んでいることを糧に、一日も早く訓練技術を習得されることを望んでやみません。
このプロジェクトには大きなリスクが複層的に絡んでいるように思いますが、行政との議論を慎重

訓練場風景



に詰め、MD事業存続・拡充、現有犬の能力向上のためにも、是非、成功することを願っています

みえ県民カビジョン

暮らしと産業を守る
獣害対策プロジェクト

サルやニホンジカ、イノシシなど野生鳥獣による農水産被害が急激に拡大しています。
このため、県では、被害に強い集落造りや、被害地周辺での野生鳥獣捕獲体制を整備する取り組みを支援します。
また、安全性や品質が確保された獣肉等の流通の

矢川のアライグマ（続き）

矢川では、アライグマの被害が、10月になっても収まりません。
山田出付近では、自家用サツマイモに大きな被害が出ています。
被害が一度発生すると常習化し、被害箇所を中心に新たな被害地拡

大のおそれがあるため、集落ぐるみで、捕獲にとり組むことが大事です。
捕獲では、錯誤捕獲に十分な注意を要しなければなりません。錯誤捕獲防止のため、誘導餌にはネコなどが好む食品の使用は避けて下さい。

アライグマによる農作物害も、収穫時期が近づくと短期間に集中して被害が出ます。早期収穫が早い目に対策を行うことが重要です。
次に、防

護柵ですが、食痕などで判断をして、先ず個体を特定することが基本です。

アライグマの場合は、飛び上がっても手が届かないよう、柵の高さは1.5m以上にします。網を使った場合、アライグマは柵を登ることができるので、上面（天井）にも網を張ります。網の

仕組みづくりを進めることで集落周辺への野生鳥獣の出現の減少を図ります。
（戦略企画部 企画課）

すそは、アライグマが潜り込まないよう、重いものでしっかりと押さえ込みます。トタンであれば、接地面を20～30cm程度埋めると下からの潜り込みを防げます。

トリアは柵の下に穴を掘って侵入することもあるので、柵の接地面に波板等を30cm程度埋めると侵入しにくくなります。

捕獲した時は、絶対に素手で触らず直ちに、名張市農林資源室に連絡して下さい。
（土・日・祭日は除く）
TEL 63-7625

室生竜口城の猿の群れ

中世城館研究者
星野直哉さんからのメール

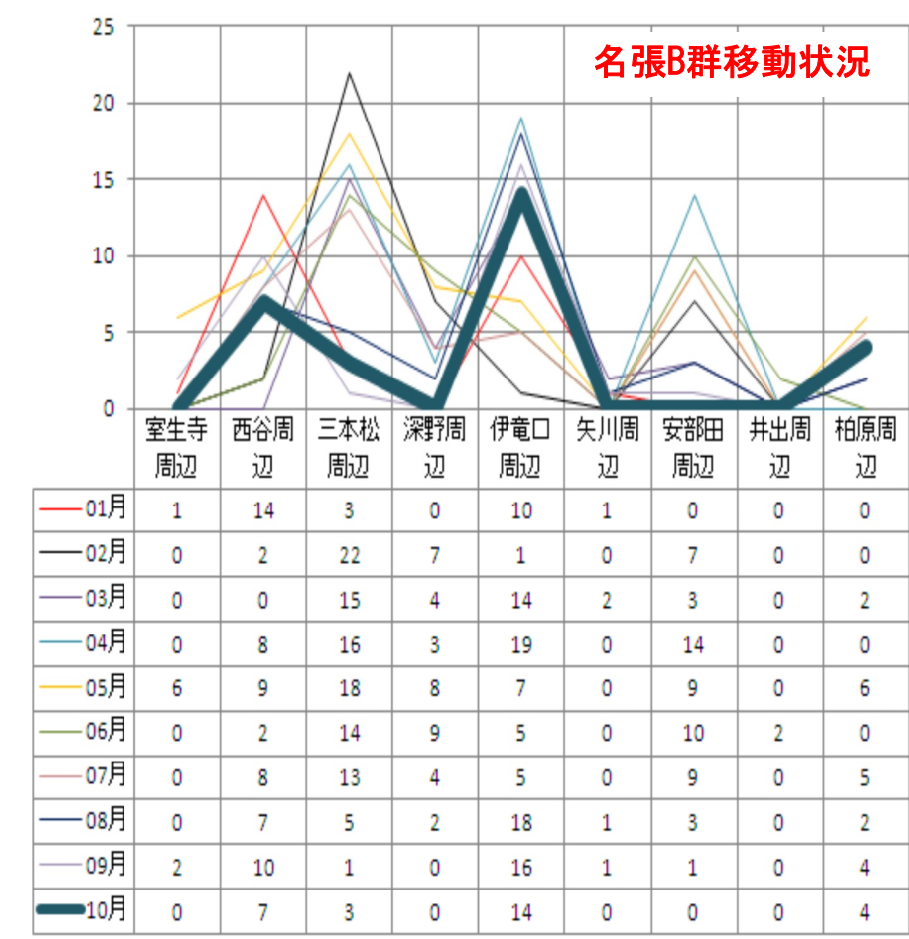
初めまして。奈良県の中世城館を研究し探索して回っている者です。
きょう10月16日正午より午後二時頃までの間、奈良県宇陀市室生区龍口から山道を登って三重県名張市龍口との境目の山にある中世城郭「龍口城」を探索しました。百地丹波の砦とされ、最近に遺跡の存在が明らかになったものです。

城跡の中心には稲荷神社がありましたが祭祀はとだえているようで荒廃しており、県境を通る山道からの尾根道がいちおう残っている状態でした。この龍口城は東西に二つの砦があり、東の砦に稲荷神社があります。

そこから100メートルほど離れた西側に西の砦があります。これを探索して図面を作成している

最中、サルの群れに出会いました。
距離をおいて私を遠巻きにして見張っているような感じで、視認したのは五頭ぐらいですが、他にも林間を走りすぎる影がみえたりで、さらに何頭かいたようです。
私が黙除けのベル鈴を鳴らしながら動き回っていたので、その音を聞きつけて集まってきたのかもしれませんが、30メートルぐらいの距離をとつたまま常に三頭ぐらいがじーっとこちらを見ており、中にやや大きな体格の、いかにもボス猿らし

いのがおりました。
実は、奈良の城跡を探索して20年以上になるのですが、サルに出会ったのは初めてでした。イノシシには時々出会いますが、滋賀や兵庫の方面ではクマの危険もありますので、常に花火20本と爆竹200本を携帯しておりますが、これをサルに対して使うとどのような事態がおこるのか分からず、不安にもなりましたが、サルたちも近づかないので、城跡の遺跡に沿ってなるべく刺激を与えないように静かに移動し、しかし常に見張りを怠らずにして周囲を見回しながら東の砦へ戻りました。神社があるせいか、東の砦に戻る途中からサルの気配は消えてしまい、そのまま下山しました。
それで三重県との県境



サルの出没状況

龍口城へは、再度の探査見学を予定し、私を含めて三人での行動を予定していますが、季節的には来月2月か3月ぐらいの見込みです。
再びサルの群れに会うことも有り得ますが、対策としてどのような方法があるでしょうか。山に入らない方がよい、というのであれば城跡の調査が出来なくなるので困ります。

花火と爆竹の使用は、サル対策には適しているのでしょうか。

夏野菜シーズンは、畑の農作物の被害がかなり

大阪府高槻市

星野直哉

サルは、あの森や、あの畑に行かないければいけないと言ふ必然性は持つてなく、通りがかりに、実を付けているものがあればとて食べる。という行動を毎日繰り返して、「ねぐら」は特定していません。日が暮れると適当な場所まで夜を過ごします。

餌を摂る場合は、付近に人がいない（無防備）ことが条件になります。通りかかった畑に美味そうなものがあり、人がいなければ侵入します。

最近のサルの動向
指南員より

夏野菜シーズンは、畑の農作物の被害がかなり

多かったです。最近では名張A、B群ともに栗、柿、アケビなどを主に食べていて山中や山裾にいることが多くなった。しかし集落内でも柿、栗の木に群がったり民家の屋根上に登っているところもよく目立つ。食べ物を食べていないときは道や橋の高台などで日向ぼっこをしているところも見られる。また秋になり食べ物が減ってきたのか移動スピードが速い。直線距離にして2km以上を数時間で移動することもある。

お悔やみ

23日の朝9時42分
一ノ井、矢川地区で猿追い松犬として永年活躍してくれたモミジが永眠しました
面影を偲びながら心よりご冥福をお祈りいたします
合唱